

1. 2016年度の地域支援活動実績

地域	活動内容	対象者	参加人数 (大学院生)	担当	実施日
鹿児島市	ADOS-2 研修会	大学院生	(12名)	高橋	4月4日
鹿児島市	アジア心理臨床講演会	大学院生	(15名)	高橋	7月1日
霧島市	発達に関する学習会	一般・保護者・支援者	53名 (3名)	高橋	9月2日
霧島市	発達に関する学習会	一般・保護者・支援者	76名 (2名)	平田	9月21日
枕崎市	「発達障害の理解と支援」 講演会	保育士・幼稚園教諭・養護教諭	約70名	小澤	9月23日
霧島市	発達に関する学習会	一般・保護者・支援者	83名 (3名)	小澤	9月28日
伊佐市	就学相談活動	年長児	4名 (10名)	小澤	10月12日 11月4日
霧島市	発達に関する学習会	一般・保護者・支援者	95名	松浦	10月27日
鹿児島市	バリデーション ワークショップ	介護福祉士・作業療法士 看護師・ケアマネージャー	約25名 (6名)	稲谷	11月1日
霧島市	面接調査 「私のアルバム」作成	高齢者	約25名 (18名)	稲谷	11月19日
鹿児島市	子育て支援に関する 研修会	保護者・子育て支援者 大学院生	約25名 (18名)	小澤	12月9・10日
計	11回		約450名 (大学院生87名)		

2. 各地域における支援活動

(1) 霧島市における支援活動

霧島市こども発達サポートセンターあゆみでは、地域に対する発達障害の普及と啓発のために毎年発達に関する学習会を実施しています。今年度は、教員の高橋、平田、小澤、松浦の4人がそれぞれ学習会の講師を担当しました。

乳幼児期から思春期までの心の発達や関わり、また発達障害の特性を持つ子どもの特徴や求められる支援に関連してそれぞれのテーマから講演を行いました。参加者は自身の関わり方を振り返るとともに、理解が深まったことによって子どもへの関わりや支援につなげられるヒントを得る機会になったようです。



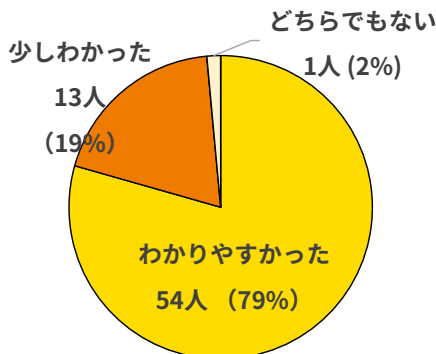
事前学習の様子



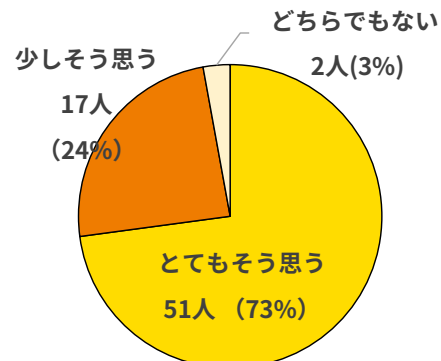
研修会の様子

講演会テーマ

- ・高橋「子どもの心の発達と関わりの工夫
～幼児期から思春期～」
- ・平田「子どもの発達の特性に関連する心の反応
～理解と対応の工夫～」
- ・小澤「子どもの発達の特性と理解
～子どもの自分自身のとらえ方とそのサポート～」
- ・松浦「発達障害を抱える成人の生きづらさと支援について」



研修会はわかりやすかったですか？



研修会は役立つと思えましたか？

(2) 枕崎市における支援活動

枕崎市のサンフレッシュ枕崎にて、枕崎市内の託児所、保育園、幼稚園に勤務している保育士及び小学校に勤務している養護教諭を対象に教員の小澤が「発達障害の理解と支援」というテーマで講演を行いました。内容として、発達障害に関する基礎的知識と定型発達との連続性について講義し、支援の視点についての説明を行いました。



講演会の様子

【参加者からの意見、感想】

- ・対応の仕方(周囲の関わり)で子どもは変われることを知れた。
- ・改めて自分の保育を見直すきっかけになった。
- ・幼少期でしか関われないが、将来性を考えた支援が必要になってくるんだと改めて感じた。

(3) 伊佐市における支援活動

伊佐市では地域支援活動として、これまで大学院生が就学相談会の現場で検査者となり、対象児童への心理検査を行ってきました。本年度も3名の大学院生が実際に心理検査を行い、その結果をもとに教員の小澤が、3組の親子を対象に就学相談を行いました。

就学相談会にあたっては、心理検査の実施前に3回にわたった事前学習により、就学相談や心理検査について知識・理解を深める事ができ、実施後には事後学習を行い、子どもの見立ての整理や所見作成について学ぶことができるよう実践教育を行いました。心理検査の実施から検査所見の作成、就学相談会でのフィードバック(陪席)の一連の流れを体験できる事により、大学院生にとっては自身のスキル向上につながると同時に、大学院生の心理検査や発達支援に対する関心を向上させるきっかけになったようです。



事前学習の様子



ロールプレイの様子

第4章

3. 研究成果の公表

2016年9月、横浜で開催された日本心理臨床学会第35回秋季大会にてポスター発表を行いました。「地域支援の臨床実践と実務教育を架橋した新たな『実践型教育プログラム』の開発（11）－高齢者へのライフストーリーワーク実践－」との演題で、筆頭の稲谷を中心にポスター発表を行いました。学会発表当日は地域支援に関心のある多くの参加者を集め、活発な意見交換がなされました。

発表時のディスカッション内容

【参加者からの質問】

- ・実践的教育における事前指導では、どのようなことをしたのか？

【スタッフからの回答】

- ・事前学習として、2コマ分の質的研究の概念と方法、3コマ分のライフストーリーワークの目的やデータ記録の方法、個人情報と倫理的配慮、インタビューにおけるコミュニケーションスキルについてなどを指導した。そのうえで、A市の「私のアルバム」作成と認知症ケアパス施策とはどのようなもので、その目的と実践について、ディスカッションを行いながら指導した。

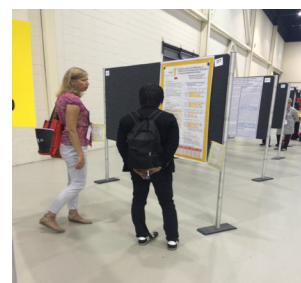


ポスター発表の様子

2016年8月、カナダ・カルガリーで開催された第21回子ども虐待防止世界会議（The 21st ISPCAN International Congress on Child Abuse and Neglect）にて研究成果の発表を行いました。「Group care size and difficulties of children with developmental disorders in Japanese residential care homes」との演題で、発表者の小澤・平田がポスター発表を行いました。学会発表当日は世界各国の地域における子どもの虐待や支援に関心のある多くの参加者を集め、活発な意見交換がなされました。

発表時のディスカッション内容

- ・里親委託の中での困難要因の一つに、子どもの発達障害に類する行動による問題があるため、どの国でも重要な課題になっている。
- ・発達障害に関するアセスメントの難しさがあり、適切な評価や診断に結びつくシステム作りが重要と考えられる。



ポスター発表の様子